

ポリオの予防接種について

～「生ポリオワクチン」の「不活化ポリオワクチン」への一斉切替～

- 予防接種法に基づく定期予防接種として位置づけられている「ポリオワクチン」について、本市では、これまで多くの自治体同様、春と秋の年2回、各区福祉保健センターにおいて「生ポリオワクチン」による集団接種を実施してきました。
- 「生ポリオワクチン」については、100万人に1.4人の割合で、ワクチン接種による麻痺が発生する可能性があるため、国では、平成24年4月27日に「不活化ポリオワクチン」が薬事承認されたことを受け、ワクチン接種の安全性を高めるため、9月1日から全国一斉に「生ポリオワクチン」から「不活化ポリオワクチン」に切り替える方針を示しています。
- 本市においても、国の方針に合わせ、9月1日から確実かつ円滑に「不活化ポリオワクチン」の接種が行えるよう準備を進めます。

1 ワクチンの一斉切替に伴う変更内容について

(現状)

使用ワクチン	標準接種年齢 (対象年齢)	接種方法 回数	接種体制
生ワクチン	生後3か月～18か月 (生後3か月～90か月未満)	経口投与 2回	区福祉保健センターでの集団接種 年2回(概ね4月、10月)実施



(平成24年9月1日以降)

不活化ワクチン	生後3か月～18か月 (生後3か月～90か月未満)	皮下注射 4回	協力医療機関(市医師会に委託) 年間を通じて実施
---------	------------------------------	------------	-----------------------------

2 不活化ポリオワクチンについて

(1) 単独の不活化ポリオワクチン

平成24年4月27日 厚生労働省による薬事承認済み → 9月1日から定期予防接種に導入

(2) 四種混合ワクチン※

国内メーカー2社が薬事承認申請中 → 11月頃、定期予防接種に導入見込み(詳細未定)

※ 現在、定期予防接種として実施している「三種混合(ジフテリア・百日せき・破傷風)ワクチン」に不活化ポリオワクチンを追加した混合ワクチン。

3 導入スケジュールについて

	国	横浜市	ワクチン供給
4月23日	「不活化ポリオワクチンの円滑な導入に向けた検討会」にて9月からの全国一斉導入の方針提示。	4月～5月(H23年度 春) 生ポリオワクチンによる集団予防接種 (各区福祉保健センター)	生産 輸入
4月27日	不活化ポリオワクチン(単独)薬事承認		
5月			
6月1日	厚生労働省 自治体向け説明会 (不活化ポリオワクチン導入の依頼)		国の 検定
6月14日		第2回市会定例会(常任委員会)にて説明	
6月	予防接種実施規則(使用する ワクチンを規定)の改正手続き (パブリックコメントの実施等)	接種体制の構築 (市民周知、医師会との委託 契約等)	発売・流通開始
7月			
8月			
9月1日	単独の不活化ポリオワクチンの定期接種への導入		
9月		第3回市会定例会にて説明(予定)	
10月			
11月頃	四種混合ワクチン(現在の三種混合+ポリオ)の定期接種への導入【見込み】		

4 市民周知について

「広報よこはま」などの広報紙、市のホームページのほか、乳幼児健診や他の予防接種の機会を捉えて、接種方法の変更等についてご案内していきます。

5 予算について

必要経費については精査中ですが、9月の導入当初にあたっては、既存の定期予防接種に係る予算を活用し対応したいと考えています。

今後、国から示される「四種混合ワクチン」(11月導入見込み)の詳細や、「単独の不活化ポリオワクチン」の接種状況等を踏まえ、必要に応じて、市会第3回定例会に補正予算を上程させていただくことを検討します。

(参考)

平成24年度予算(定期予防接種に係る当初予算)

個別予防接種事業(※)	4,476百万円	} 約45億円
集団予防接種事業(生ポリオ)	78百万円	

※個別予防接種

次の定期予防接種について、横浜市医師会に委託し、市内の協力医療機関で実施しています。

BCG、三種混合(ジフテリア、百日せき、破傷風)、二種混合(ジフテリア、破傷風)

麻しん風しん混合、日本脳炎